

令和 8 年度 沖縄県／英語教育改善プラン

目標

外国語によるコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育む教員の指導力の向上

○授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合（R5:96.2%⇒R6:97%⇒R7:98%⇒R8:99%⇒R9:100%）

○「話すこと」を評価するためのパフォーマンステストを実施した学校の割合（R5:97.2%⇒R6:98%⇒R7:99%⇒R8:100%⇒R9:100%）

○英語の授業において、「児童が 1 人 1 台端末を活用した授業」を実施した学校の割合（R5:95.7%⇒R6:97%⇒R7:98%⇒R8:99%⇒R9:100%）

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☒ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じ、伝えたい内容や必要な表現を自ら考えて伝える言語活動が見られる。
授業中における50%以上の時間言語活動を行っている学校の割合 R5:96.2%
- ②R6全国学力・学習状況調査の質問調査項目「英語の勉強は好きですか」の肯定的な回答が増加傾向にある。
R5:65.9%⇒R6:68.3%

未だ改善が必要な点

- ①学習到達目標の整備状況は改善が見られるが、全学校で整備されている状況ではない。
(R5)
設定 66.9%
公表 41.7%
把握 57.1%

2. 要因分析

- ①②
各種研修会の実施及び教科（外国語活動・外国語）の重点事項に基づく授業改善に努めてきたことで、言語活動の充実が図られてきたと考えられる。

- ① 学校間の差が見られる。また、外国語教育担当者の理解等は進むが、担当が変わると活用状況も変わり、校内での共有が不十分だと考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

□①②を継続・更なる改善を目指すための下記 3 事業の実施

- 小学校英語ステップアップ研修会
・各教育事務所に年間 2 回実施
・対象：全小学校外国語活動及び外国語担当者（各学校 2 名）
・内容：公開授業及び協議
- 小学校英語専科指導教員連絡協議会
・全県連絡協議会 2 回、地区連絡協議会 2 回実施
・対象：英語専科指導教員（45名）
・内容：公開授業及び協議、相互授業参観等
- 授業実践交流協議会
・対象：英語専科指導教員（45名）
・内容：授業参観及び授業改善に係る研究協議等

□小中高大連携の推進

児童生徒の学びの継続性を確保するため、英語小中高大連携研修会にて、各校種における公開授業を行う。（参集とオンデマンドのハイブリット型）

□義務教育課ポータルサイトによる情報提供

①「沖縄県版CAN-DOリスト」を掲載し、各学校へ作成目的の周知、作成及び活用の支援を行う。

□一定の英語力を有する小学校教師の新規採用に係る取組

教員採用試験における加点措置の実施（中学校又は高等学校英語教諭普通免許、英検準 1 級以上、TOEFL iBT72点以上、TOEIC Listening Test 785以上のいずれか）。

令和 8 年度 沖縄県／英語教育改善プラン

目標

外国語によるコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育む教員の指導力の向上

○CEFRA1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R7目標:45% R7結果:41.9%、R8目標:48%、R9目標:50%）

○授業中における50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合（R7目標:78% R7結果:70.4%、R8・R9目標:80%）

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☒ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①授業中における50%以上の時間言語活動を行っている学校の割合
R6:53.7%
R7:70.4% ※独自調査
- ②CEFR B2レベル相当の英語力を有する英語担当教員の割合
R6:67.4%
R7:75.4%

未だ改善が必要な点

- ①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合
R6:37.6%
R7:41.9%
前年度比で、増加傾向にあるが、国の示す指標達成には至っていない。

2. 要因分析

- ①各種研修会の実施及び教科（外国語活動・外国語）の重点事項に基づく授業改善に努めてきたことで、言語活動の充実が図られてきたと考えられる。
 - ②教員自身が英語に対する関心が高いこと及び教員採用試験での加点制度の効果が考えられる。
- ①学習指導要領に示される内容の理解や指導と評価が一体的に行われていないことが要因と考えられる。
また、目指す生徒の具体的な姿（b基準）の設定と生徒の見取りと継続した指導が不足している。

3. 目標を達成するための施策・事業

① 探究的な学びモデル事業

言語活動を通して生徒の資質・能力を育成するという理解を引き続き図り、本県の課題でもある学力下位層を含む多様な子供たちに着目した探究的な学びの要素を含む授業づくりについて研究する。
内容：県内各地区の代表授業者と指導主事等がモデル授業を開発し波及を目指す。

① 中学校STEP UP研修会

子供の姿に基づく授業改善を目指し、指導と評価の一体化を図るため、STEP UP研修会を年に2回実施する。
内容：指導と評価の一体化に係る協議等を行う。

① 指導主事等による教科会支援の推進

各種研修会後の授業実践をフォローするため、教育事務所指導主事、指導主事補及び授業改善アドバイザーによる教科会支援の充実を図る。また、授業づくり学習会（1月）にて、令和8年度の実践及び好事例の紹介等を小学校と中学校の合同で行う。

□ 義務教育課ポータルサイトでの情報提供

実践報告、その他好事例等を掲載し、目指す授業像の共有を図る。

□ 小中高大連携の推進

生徒の学びの継続性を確保するため、小中高大連携研修会にて、各校種における公開授業を行う。（参集とオンデマンドのハイブリット型）

令和8年度 沖縄県 英語教育改善プラン

指導と評価の一体化の促進を通じた生徒の英語力向上（CEFRA2レベル相当55%）
及び国際性を身に付けたグローバルに活躍できる人材の育成

目標 ○ CEFRA2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
（R7目標:A2以上 50%、B1以上 20%、R7結果:A2以上 39% B1以上 13.9%、 R8の目標: A2以上 55%、B1以上 20%）

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☐ 教師の英語力・指導力 ☒ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
（パフォーマンステスト含む）（AIを除く）

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ① CEFRB2レベル相当以上の英語力を取得している教師の
高い割合
(R6:94.7%→R7:94.9%)
- ② CEFRB1相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合が増加
(R6:10.9%→R7:13.9%)

未だ改善が必要な点

- ① CEFRA2レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒割合が減少
(R6:43.0%→R7:39.0%)
- ② 授業における、英語担当教師の英語使用状況において発話50%を英語で行っている割合が減少
(R6:45.5%→R7:43.3%)
- ③ ICTの活用割合の減少
・発話や発音の録音・録画 R6:84.5%→R7:72.4%
・人との文字でのやりとり R6:46.6%→R7:41.4%

2. 要因分析

- ① 英語小中高大連携研修や指導力向上研修等を通して、英語担当教師の英語力が向上し、検定等に対する意欲も高まったと推察する。
- ② R6に減少したことを受けて、各校の授業や各事業において、さらに上のレベルに挑戦するよう促し、動機付けを続けた結果だと推測する。一方で、CEFR A2レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合が減少している点で、英語力の二極化を懸念している。
- ① 外部試験によるA2レベル以上取得者数は増加しているものの、学校における到達度評価によるA2「相当」の生徒の割合が減少していることから、各校のA2相当の判断基準のばらつきや、指導と評価の一体化に課題があると考えられる。
- ② 英語の授業を英語で行うことのメリットを感じられていないことが要因だと考える。研修等で、効果的な方法等を示唆する必要がある。
- ③ 一人一台端末の整備により、ICT活用は定着してきたが、生徒の英語による発信力や言語活動の充実に効果的につながる活用については、学校間・教員間で差があると推察する。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ① 授業改善の推進
指導と評価の一体化の促進のため、以下の取り組みを行う。
○ 教育課程説明会
令和7年度は、高校英語担当教員対象にオンラインで実施した。県内英語科職員向けに、高等学校外国語科で育成する資質・能力について、さらに生成AIを含むICTの活用についての情報共有を行った。生成AIの活用については、多くの生徒や保護者からも関心が高く、今後は各学校の実践事例等をTeamsで共有するなど県全体への周知も行う。
- 英語小中高大連携研修会
令和7年度は県内全ての小学校、中学校及び高校から1名以上の教員が参加するオンデマンド・対面のハイブリッド研修を実施した。異校種の授業観察や授業検討会、県内大学の英語教育専門人材の招へい等により、本県英語教育の課題の共有や対応策について理解を深めた。令和8年度もさらに充実した研修会を行う。
- ② 国際性に富む人材育成事業の推進
創造性・国際性に富む人材を育成するため、以下の事業を行っている。
○ 国際性に富む人材育成留学事業（長期留学）
○ グローバルリーダー育成海外短期研修事業
・アメリカ高等教育体験研修（3週間）
・専門高校生国外研修（2週間シンガポール）
・高校生海外雄飛プログラム（2週間ハワイ）
・中国教育交流研修（2週間中国）

沖縄県教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		50.0	40.3	50.0	43.0	50.0	39.0	55.0		60.0	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		20.0	12.1	20.0	10.9	20.0	13.9	20.0		20.0	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		60.0	60.5	65.0	61.5	65.0		70.0		70.0	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		70.0	65.9	70.0	66.5	70.0		80.0		80.0	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100.0	81.7	100.0		100.0		100.0		100.0	
		公表（％）	70.0	42.3	70.0		70.0		70.0		70.0	
		達成状況の把握（％）	90.0	57.7	90.0		90.0		90.0		90.0	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		95.0	91.3	95.0	94.7	95.0	94.9	95.0		95.0	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		75.0	49.2	75.0	45.5	75.0	43.3	75.0		75.0	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		45.0	40.3	43.0	37.6	45.0	41.9	48.0		50.0	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		75.0	67.5	75.0		78.0		80.0		85.0	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		100.0	87.9	100.0		100.0		100.0		100.0	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100.0	99.3	100.0		100.0		100.0		100.0	
		公表（％）	65.0	82.1	85.0		85.0		85.0		85.0	
		達成状況の把握（％）	70.0	77.1	80.0		80.0		85.0		85.0	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		60.0	66.6	68.0	67.4	68.0	75.4	70.0		70.0	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		85.0	60.7	65.0		65.0		70.0		75.0	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	65.0	66.9	80.0		85.0		90.0		100.0	
		公表（％）	50.0	41.7	50.0		55.0		60.0		65.0	
		達成状況の把握（％）	50.0	57.1	60.0		65.0		70.0		75.0	